

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

254号

★ 2022年12月26日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 品川区長選、再々選を避ける

注目されていた品川区長選は、1回目で決定できず、再度の選挙で森澤氏が当選しました。

1回目で一位だった森澤氏にさしたる理由も無く票が集まったのは、再々選となるのを避けたいと言う心理が働いたと思われる。

羽田問題はどの候補も無視することがなかっただけでも一歩前進かと思われます。この勢いは次の渋谷区長選にも引き継がれていくことでしょう。

○ 裁判はいま



注目を集めていた羽田問題の訴訟は、一般には公開されない進行協議が続いています。

原告に要求されていた騒音被害の調査結果がどう判断されるか、裁判官の人権意識が問われることでしょう。

残念ながら日本の司法は基本的人権を何より尊重すると言うよりは、国策や企業の利益のためなら国民に我慢を強いているように思えます。訴訟を起こす側は正義を求めて時間・体力・気力・資産をつぎ込んで期待するのですが、圧倒的で暴力的な権力の前には悔しい思いをすることが多いのです。

人口密集地の上に定期的な航空路を設定するといった暴挙も、果たして国策だからという理由で認められて良いのでしょうか。

○ しゃれ街条例への質問・研究

横浜市立大学4年生で国際教養学部の学生Yさんが「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」に関する卒業研究作成のため訪れてきます。

○ 「定点写真」展の報告

12月1日(木)～6日(火)に「ギャラリー一服部」で展示。1974年に常盤台を訪れた金井一朗さんが撮った3～40枚の写真を「常盤台の景観を守る会」が譲り受け、同じアングルで定点写真を撮り、2010年撮影のものと、2022年撮影したもの3枚を並べて展示しました。今後も10年ごとにでも撮影していくと、貴重な資料となり、それはまた地域の財産ともなるでしょう。

常盤台住民、特に新しい住民があまり見えなかったのは残念でしたが、劉一辰氏等明海大の教授3人と学生3人が来場し、その後常盤台の街歩きをし、常盤台ガイドラインでは3階を目途にという所に4階を強引に建てようとしている所はぜひ見たいと案内を頼まれました。全国的に珍しい不動産学科の人達でした。

○ 常盤台駅舎のアンケート調査

東工大の田宮さんという学生が、修士論文に常盤台のリニューアルされた駅舎について、駅を利用している住民の意識調査を行いました。国立や田園調布の駅舎についても調べているそうです。紙媒体と同時にQRコードを使ってのアンケート調査でした。どんな結果が出るやら興味深いものがあります。田宮さんは熱心で、開催中の定点写真展も見に来ました。

○ ときわ台駅の模型もXmas

「じゅん散歩」で紹介されていた玩具のフジヤの藤田さんが作ったときわ台駅の模型が、改札口左手に展示されていますが、12月12日ごろからそこにハナを添えているシルバニアの人形たちがクリスマスに模様替えしていました。

お正月には紋付き袴や振り袖姿になるのか楽しみです。

図書館跡地には

小さな音楽サロンを!!!

板橋区は、中央図書館跡地に区民事務所と駐輪場をつくる計画案を発表しています。

しかし、この案は常盤台公園にふさわしいとは思えず、住民の多くが望んだ「小さな音楽サロン」の実現が望まれます。コロナ前の二〇年六月に、地域住民から二四〇〇人分の署名をそえて区に要望が出されています。

音楽サロンのイメージは、音楽発表会に使われる利用人員が八〇名から百人以内の小規模な、ウッドデッキでデザイン性に優れた建物でこれまでの中央図書館よりずっと小さな建物です。常盤台の景観と静かさにふさわしい建物になるでしょう。平和公園の新中央図書館がグッドデザイン賞を受賞したのですから、それに続きたいものです。

常盤台公園の地域は第一種住居専用地域です。「劇場」のような大人数が集まる施設は好ましくありませんが、地域になじむ規模な行政の判断と住民の合意で可能です。

こうした小規模な音楽発表の場は都内でも意外に少なく、区内の音楽家にとどまらず近隣の方々にも歓迎されることでしょう。

他区から来訪する人が、二三区で最も少ない区である板橋区ですので、一つぐらい話題性がある素敵な建物がほしいものです。(MN)

Yさん、ご投稿有り難うございました。図書館跡地にはやはり音楽ホールのような文化施設が欲しいと言う声は根強いのです。(S)

鈴木エイト氏大いに語る

グリーンホールにて

統一教会の追跡ジャーナリストとしてテレビによく出演している鈴木エイトさんが、社民党の五十嵐区議主催の講演会で、問題点を詳しく解説・講演しました。テレビではどこか寡黙な感じがしましたが、実際は豊富な材料を持ったユーモアに溢れる解説をする人でした。板橋区では統一教会の隠れ蓑となつた名称変更を許した当時の文科省大臣の下村博文氏の名が取りざたされています。統一教会の選挙での恩恵を受けていたと思われる区議もひとりではないようです。選挙ではどんな手を使つても当選したいでしょうが、私たちも次の選挙ではしっかりと見定めないと、とカルト集団の脅威を感じました。

戦争はいやだ!

ウクライナでは今現在も戦争が続いています。地上のどこかで殺し合いが絶えないのはホモサピエンスの本性なのでしょう。

私たち日本人、特に後期高齢者と言われている人はみな、あの愚かな太平洋戦争の経験者です。中には実際に戦闘に参加した人もいますが、殆どは戦後の苦しさ、ひもじさ、の経験者で、親たちの血のにじむような苦勞を見て育つたのです。戦争の悲惨さを見聞きするにつけても、自分の生きていく間は絶対に戦争に関係することはしてはならないと心に誓っている筈です。中国や北朝鮮の脅しに乗って、軍国主義に戻ってはなりません。

常盤台公園のはなづくり

皇帝ダリアの常盤台での情報を頂きました。パプテスタ教会近くの駐車場から塀越しに美しい花が見られました。冬枯れのこの季節にピンクの大輪の花は目を引きます。しばらく見とれてしまいました。

公園はサクラ・ケヤキが多いのですが、どれも落葉するので、毎週月曜日の老人会の方達は大変なご苦勞をしています。

六時半からのラジオ体操のあと、七時ごろから取りかかって、すっかり落葉を袋詰めして集め終わるまでには十時をまわっています。腰・膝の痛みを抱えている方も多いことでしょう。

それでも公園の木を全部切つてしまえなどと言う人はいません。人間には炭酸ガスを酸素に変えてくれる植物が絶対必要なのです。夏の日射しを遮り、落葉して冬の太陽エネルギーを届ける、なんと有難い存在でしょう。

樹木のためを思うとイルミネーションはかなりのストレスを与えらると思われます。先日駅前ロータリーでもケヤキに電飾が施されていましたが、歳末の賑やかさでは仕方がないものの、LEDを用いる、付けっぱなしにしない、あれ以上数を増やさない、などに留意して頂きたいと思えました。イヴェントは一過性のもの。普段の努力こそが評価されるものでしょう。

